

-A フーリエ級数からフーリエ変換へ

1. フーリエ変換の定義

~ 教科書4章(特に4.3節) 宿題は問題4.8

連続時間信号 $f(t)$ は、次式のようにフーリエ表現される。

$$f(t) = \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} F(\omega) e^{+j\omega t} d\omega \quad \text{フーリエ逆変換}$$

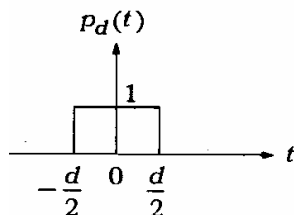
但し、 $f(t)$ のフーリエ変換である $F(\)$ は次式で与えられる。

$$F(\omega) = \int_{-\infty}^{\infty} f(t) e^{-j\omega t} dt = \mathcal{F}[f(t)] \quad \text{フーリエ変換}$$

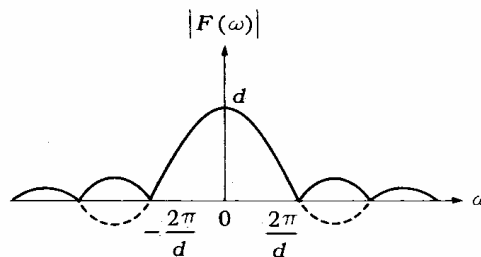
2. 代表的な波形のフーリエ変換

~ 宿題は問題4.10, 4.11, 4.21, 4.18

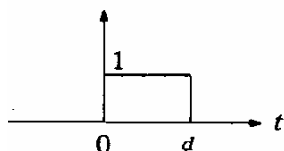
(1) $p_d(t) = \begin{cases} 1, & |t| < \frac{d}{2} \\ 0, & |t| > \frac{d}{2} \end{cases}$



変換



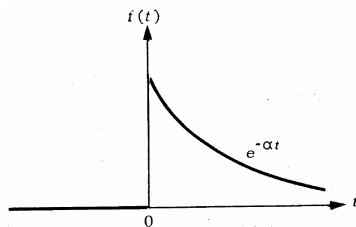
(2) $f(t) = \begin{cases} 1, & 0 < t < d \\ 0, & \text{上記以外} \end{cases}$



変換

- ・ 振幅スペクトルは(1)と同じ。
- ・ 位相スペクトルは(1)と異なる。

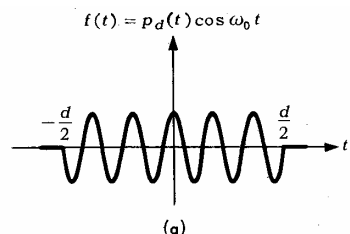
(3) $f(t) = \begin{cases} e^{-\alpha t}, & t > 0 \\ 0, & t < 0 \end{cases}$



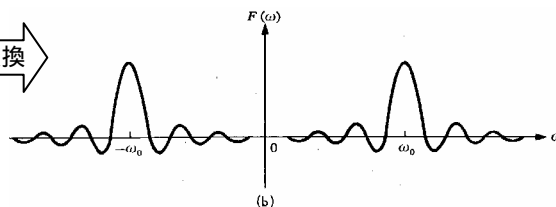
変換

$$F(\omega) = \frac{1}{\alpha + j\omega}$$

(4) $f(t) = p_d(t) \cos \omega_0 t$



変換



-B フーリエ級数からフーリエ変換へ

3. フーリエ係数とフーリエ変換の関係

～ 宿題は問題 4.1

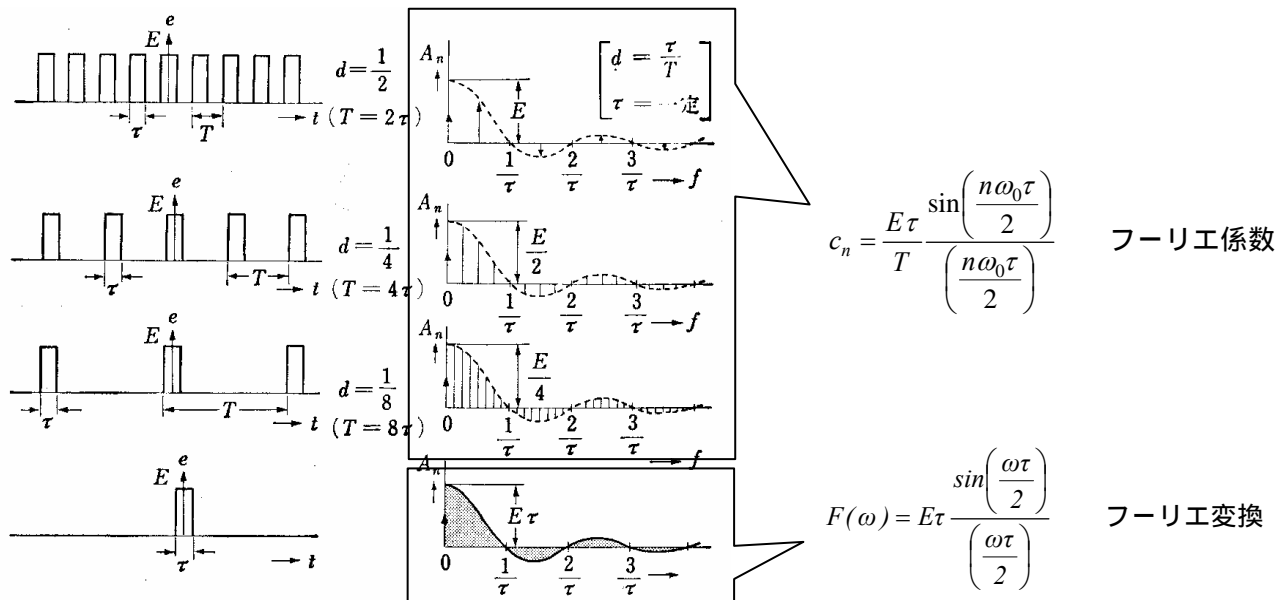
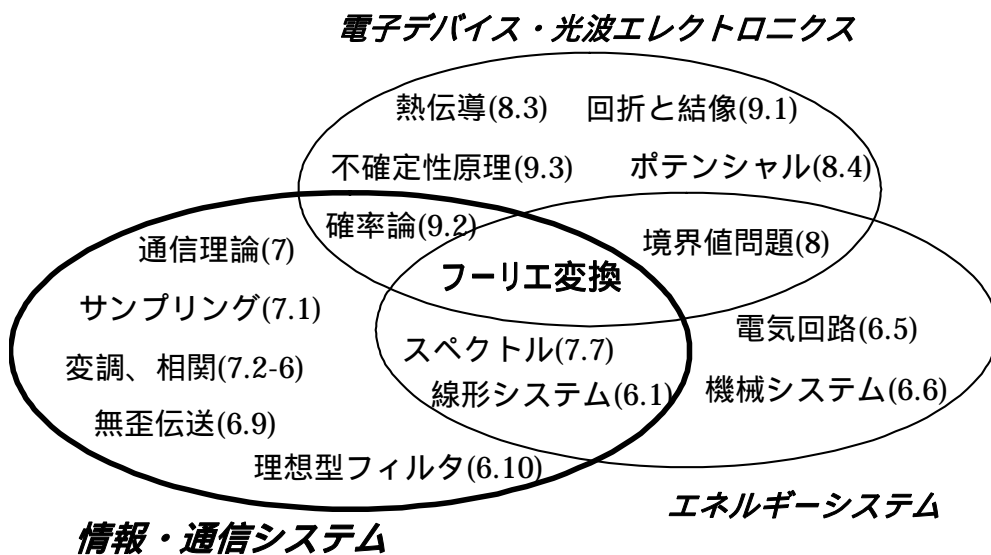


図 3.5 方形パルス列の周波数スペクトル (パルス間けきを変化させた場合)
 (数値例: $T=2\mu s$, $\tau=1\mu s$, $1/\tau=1MHz$)

佐川・辻井「基礎回路解析」共立出版より抜粋

4. フーリエ変換の応用

～ 「信号理論基礎」のコア科目としての位置づけ



()内は教科書の章・節の番号を表す。